

---

# だいすきだもん。

結椅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

だいすきだもん。

### 【著者名】

N1157F

### 【作者名】

結椅

### 【あらすじ】

いつも通りの朝。いつも通りの駅。違っていたのは、君との出会いだった。

『すきですっ・・・・・大好きです・・・・・』

朝の駅のホーム。いつもと何ら変わらない今日・・・

のはずだった。

今叫んだのは名前も知らない女の子。

・・・なんで?

「・・・・えっと?」

どんな反応していいか、わからない。

女の子は、顔真っ赤にして息を切らしている。

もちろん朝のホーム。

周りの人たちが騒いでる・・・

・・・・・。どうしようか。

とうあえず。

「ちょっと、来てくれる?」

女の子を引っ張つて静かな場所へ。

わざの冗談は・・・ついていくシラボンとしていた。

「?  
」

そんなことを思いながら女の手を見る。

ま、いつか。

あちゃ～完璧遅刻だ。

チラ、と時計を覗く。

「ふ～。」

「……どうしたの？」

今の疑問をそのまま言つてみた。

『……あの、迷惑でしたよ、ね？』

自分の靴を見ながら今にも消えそうな声で言つた女の子。

「……迷惑？んー、迷惑、だつたのかなあ、俺。

「……大丈夫。迷惑なんて、思つてないから。」

俺がそりぬいとホッとしたのか、

少し申し訳なれりに微笑んでいた。

それに少しだけキッとしながら俺は本題に移った

「なんで、告白してきたの……？」

そう聞くと、ちょっとした彼女。

『……好き、だからです……。』

そつ堂々として言える彼女が羨ましいと思つた。

「そつか。……うん、そうだね。」

もしかしたら」の出会いも、なにかの縁なのかもしれない

「今すぐには返事は出来ないけど、これから君の事

知つてこみたい、って思つよ。」

そうゆうひと、元気な声で

『はーいーーー』

つて。

それから俺たちが名前で呼び合つよつた

関係になるのは・・・

もう少し先のこと・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1157f/>

---

だいすきだもん。

2010年10月11日02時23分発行